

県南家保だより

発行日：平成 27 年 7 月 2 日

発行者：栃木県県南家畜保健衛生所企画指導課

〒328-0002 栃木市惣社町 1439-20

Tel 0282-27-3611 Fax 0282-27-4144

家畜の暑熱対策について

本県もじめじめと蒸し暑い梅雨になりました。例年では7月下旬頃に梅雨明けし、本格的な暑い夏が始まります。

家畜の環境適温は 10～20℃で、25℃を超えると採食量等に影響を受け始めます。県南地域(グラフ1：小山市)の年間平均気温を見ると、平均気温で25℃を超えるのは7月ですが、最高気温では6月からすでに超えています。また、梅雨時期は湿度も高いため、家畜は日によっては蒸し暑い最悪な環境で過ごしていると言えます。

表1は平成26年度の管内における暑熱被害状況です。本格的な暑熱被害は7月からですが、家畜はそれ以上前から暑熱ストレスを少なからず受けているのです。

天候不良の合間に、できる範囲の暑熱対策を講じましょう。

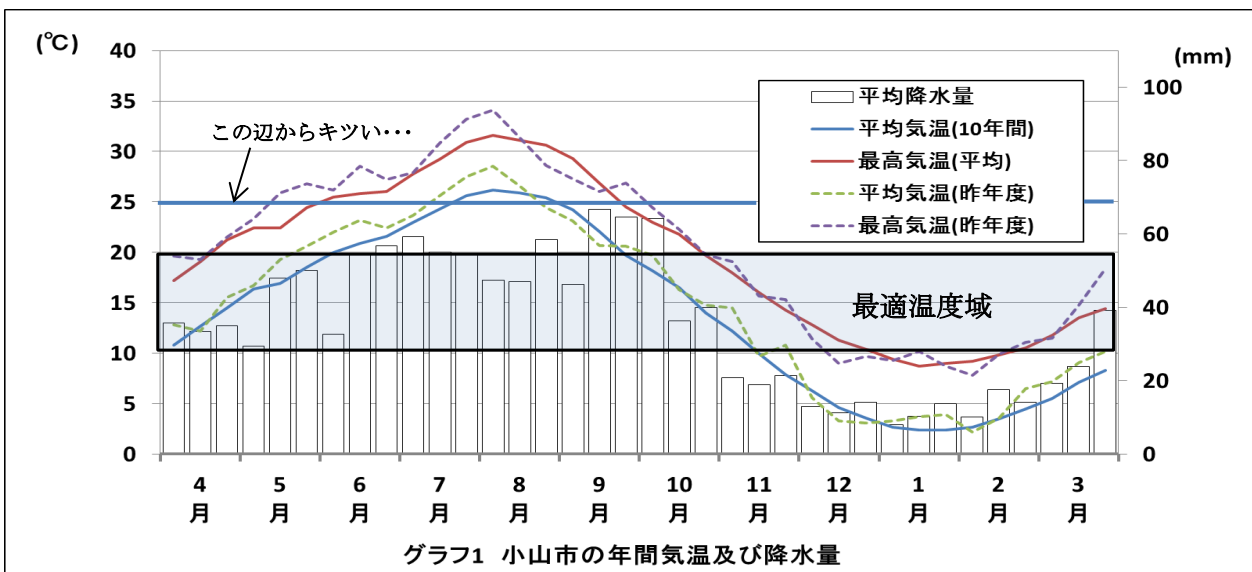


表.1 平成26年度 県南家畜保健衛生所管内における暑熱被害状況(7～9月)

月	乳用牛		肉用牛		採卵鶏	
	戸数	頭数	戸数	頭数	戸数	羽数
7月	2 (1)	2 (1)	2 (0)	2 (0)	4 (4)	860 (860)
8月	10 (6)	10 (6)	1 (-)	1 (-)	7 (7)	3,343 (3,343)

* 括弧内は戸数及び頭羽数うちの死亡頭羽数、-は報告後の状況が不明な例

暑熱対策の基本は、人の熱中症対策と同じです。①環境温度を下げる、②脱水症状防止のための水分補給、③ごはん(エサ)を食べやすくする、の3つが重要な対策となります。

個々の牛舎環境などによりできることは様々ですが、この3つの事を念頭に、それぞれの対策について説明します。

◎環境温度を下げる(牛舎環境の改善)

畜舎の構造は様々です。自分の畜舎構造を確認し、できる範囲で対応しましょう。

○すぐにできること！！

- ・今ある施設(主に換気扇など)の点検をしましょう。

換気扇はあるけど、肝心な時に壊れていたでは目も当てられません。動作確認、消耗部品の点検、そして何よりも換気扇の角度(斜め 45℃)を確認しましょう(写真 1)。

- ・畜舎内の除ふんや換気をこまめにしましょう。

家畜糞尿を放置するとそれが発酵(腐敗?)し、アンモニアなどのガスが発生します。発酵熱で畜舎は暑くなり、アンモニアガスは人にも家畜にも悪い影響を与えます。また、換気は最も基本的で簡単な対策ですので、必ず実施しましょう。



写真 1

○ちょっとした工夫でできること

- ・寒冷紗やグリーンカーテンの設置

朝顔やゴーヤ、キウイなどつる性の植物を畜舎で日差しが強い所に植えます(写真 2)。

朝顔やゴーヤは比較的成長が速いですが、原則として6月上旬までに植えましょう。

また、寒冷紗であれば時期を選ばず簡単に設置できます。

- ・屋根への散水や石灰塗布

屋根への散水はホームセンター等で販売しているタイマーや園芸用スプリンクラーを活用する事で比較的簡単に設置できます。

屋根への石灰塗布は特殊な工具が必要ですが、畜舎内の温度を約5℃下がったという事例もあり、非常に効果的です。



写真 2



写真 3

◎脱水症状防止のための水分補給(飲水量の確保)

暑熱時は水樋などの水が熱くなっています。飲み水の交換は朝のエサやりの時だけ、では駄目です。一番暑くなる昼頃には全て取り替える事や、排水対策を少しずつ掛け流しにする等の工夫が必要です。

また、基本的な事として、こまめな水槽の清掃や全ての家畜が飲水できる様にすることが大切です。

◎エサを食べやすくする(飼料摂取量の確保)

暑いと家畜もエサを食べなくなります。食べやすい時間に食べやすいものを与えるなどの工夫が必要です。また、夏は飼料が変敗しやすいので、こまめな餌槽の清掃を心がけましょう。

家畜は暑熱によりビタミン・ミネラルを消費しています。適宜添加しましょう

特に牛では、暑熱によりルーメン発酵の機能が低下するため、良質な粗飼料を給与する事や粗飼料を細断する事、重曹や鉍塩を添加するなどしましょう。

暑熱対策は『早めの対策をできる事から実践』していきましょう!!